

社 会

社会科においては、社会的事象の特色や意味などについて考え、表現する力を育むことが課題です。そのため、生徒が見方・考え方を働かせて考え、表現することができるよう、学習指導要領の目標を踏まえて評価規準を設定すること、課題を追究したり解決したりする活動を充実すること、生徒が主体的にICTを活用して考えたり、表現したりできるようにすることが求められます。

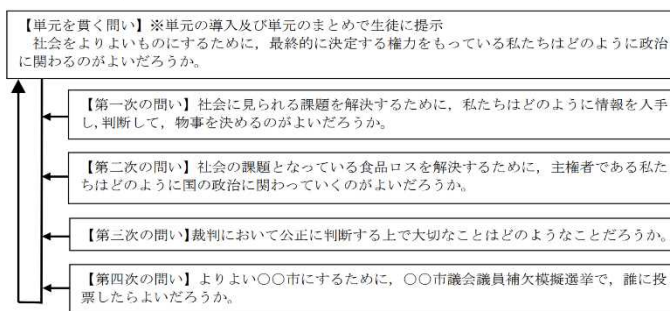
I 目標の明確化や評価の充実のポイント

社会科においては、育成を目指す資質・能力を育むため、各中項目の目標に基づき、生徒や学校等の実情に応じて単元の目標や評価規準を設定することが大切です。特に、「知識・技能」では、個別の知識の獲得を図るとともに、獲得した知識同士を関連付けた概念的な知識を定着させる評価規準を設定すること、「思考・判断・表現」では、生徒の考察などを具体的に想定した上で評価規準として設定することがポイントとなります。

II 指導計画の改善のポイント

社会科においては、課題を追究したり解決したりする活動の充実に向け、学習過程として示されている、「課題把握」、「課題追究」、「課題解決・新たな課題」の三つの過程を、単元全体や単元を構成する小単元、さらに小単元を構成する各次でも反映させ、構造的な指導計画を作成することが大切です。

また、中項目全体を貫く問いを設定し、その解決につながる「小単元の学習課題（問い）」や「各次の学習課題（問い）」を関連付けて設定することが求められており、こうした学習場面では、生徒が単元に応じた見方・考え方を働かせることができるような学習課題（問い）の工夫がポイントとなります。



【単元の目標の実現を見据えた問いの構造化の例】
（『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料』から引用）

III 手立ての充実のポイント

社会科においては、生徒が主体的にICTを活用することにより、社会的事象の特色や意味について考えたり、表現したりできるようにすることが大切です。1人1台端末を活用して社会的事象の情報を収集できるようにすること、プレゼンテーションソフト等を活用し、端的に自分の考えをまとめられるようにすること、クラウド等を活用し、情報を他の生徒と共有して意見交換を瞬時に行えるようにしていくことなどが重要です。そのため育成すべき資質・能力を見据えた上で、各分野の特質やICTを活用する利点などを踏まえた単元のデザインがポイントとなります。

【参考資料】

北海道教育委員会 HP
ICT活用ポータルサイト
【社会科実践・中学校】

社会的事象の特色や意味などについて考え、表現する力を育む計画の改善

< 単元名 >

「古代までの日本」（第1学年）

< 単元の目標 >

- (1) 古代までの日本の大きな流れを、世界の歴史を背景に時代の特色を踏まえて理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 古代までの日本に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり、思考したことを説明・議論したりする力を養う。
- (3) 古代までの日本に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究・解決しようとする態度を養う。

<単元の評価規準>

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①世界の古代文明や宗教の起りを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、世界の各地で文明が築かれたことを理解している。 ②日本列島における農耕の広まりと生活の変化や当時の人々の信仰、大和朝廷（大和政権）による統一の様子と東アジアとの関わりなどを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、東アジアの文明の影響を受けながら、我が国で国家が形成されていったことを理解している。 ③律令国家の確立に至るまでの過程、摂関政治などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、東アジアの文明の影響を受けながら我が国で国家が形成されていったことを理解している。 ④仏教の伝来とその影響、仮名文字の成立などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、国際的な要素をもった文化が栄え、それらを基礎としながら文化の国風化が進んだことを理解している。	①古代文明や宗教が起こった場所や環境、農耕の広まりや生産技術の発展、東アジアとの接触や交流と政治や文化の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、古代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 ②古代までの日本を大観して、時代の特徴を多面的・多角的に考察し、表現している。	①古代までの日本について、よりよい社会の実現を視野にそこに見られる課題を主体的に追究しようとしている。 ②学習を振り返るとともに、次の学習へのつながりを見いだそうとしている。

【Ⅰ 評価規準の設定】
 ・学習指導要領の目標や内容を基に単元の評価規準を作成し、単元を通して、全ての観点の学習状況を見取るようにしている。

<単元の指導計画（21 時間）> ※構造が分かるよう、学習課題（問い）のみ記載

学習過程	学習活動	評価規準・評価方法等
中項目の導入（1）	○年表にある事柄や人物、文化財のイラストから小学校で学習した内容を振り返りながら、古代の学習に対する見通しを立てる。	
課題把握	中項目全体を貫く問い 「古代の日本では、どのように国家が形成されたのだろうか」	
小単元 1（2～6）	小単元の学習課題 「人類は、どのような歴史をたどって文明を形づくっていたのだろうか」 (略)	(略)
小単元 2（7～10）	課題把握 小単元の学習課題 「日本列島では、どのような歴史をたどって国家が形づくられていったのだろうか」 課題追究 ① 1 次の課題 「日本列島に住み始めた人々は、どのような生活をしていただろうか」について、資料を活用して考察し、話し合った結果を発表する。 ② 2 次の課題 「稲作が始まって、社会はどのように変化したのだろうか」について、資料を活用して考察し、ワークシートに記入する。 ③ 3 次の課題 「大和政権はなぜ国内を統一することができたのだろうか」について、資料を活用して考察し、話し合った結果をワークシートに記入する。 ④各次でワークシートに記入した事柄を踏まえて、 小単元の学習課題について考察し、ワークシートに記入する。 ・ 中項目全体を貫く問い との関わりを確認する。	【思・判・表】農耕の広まりや生産技術の発展、東アジアとの接触や交流と政治や文化の変化などに着目して、小単元の学習課題について考察し、結果を表現している。 (ワークシート) 【知・技】「東アジアの文明の影響を受けながら我が国で国家が形成されていったこと」について説明している。(ワークシート)
小単元 3（11～14）	小単元の学習課題 「日本では、どのように律令国家がつけられたのだろうか」 (略)	(略)
小単元 4（15～20）	小単元の学習課題 「大陸から伝わった文化や制度は、日本の社会にどのような変化をもたらしたのだろうか」 (略)	(略)
中項目のまとめ（21）	○ 中項目全体を貫く問い を確認し、小単元 4 までの学習を振り返り、古代の社会の特徴的な変化を選び、ワークシートにまとめる。 ○当初の自己の学習の見通しと比較し、新たに加わった点や理解が深まったと考えられる点についてワークシートにまとめる。 ○次の時代につながると考えられる事柄をあげて、その理由を説明する。	
課題解決 新たな課題		

【Ⅱ 構造的な指導計画】
 ・課題を追究したり解決したりする活動を充実するため、単元全体でも小単元でも課題把握、課題追究、課題解決の三つの学習過程を踏んでいる。

【Ⅱ 問いの工夫】
 ・単元の目標を踏まえ、社会的な見方・考え方が働く「中項目全体を貫く問い」を設定し、その解決につながる「小単元の学習課題」、「各次の課題」を設定している。

【Ⅲ ICT の活用】
 ・クラウドを活用して考察し、構想したことをまとめたワークシートを共有することにより、生徒同士の意見交換を充実させ多面的・多角的に考察できるようにしている。

【Ⅰ 評価規準の具体化】
 ・何を（～について）どのように（～に着目して）考察できればよいかを評価規準に表している。

【Ⅱ 構造的な指導計画】
 ・小単元のまとめでは、中項目全体を貫く問いとの関わりを確認し、生徒が単元と小単元のつながりを意識できるようにしている。